＜私は「ゆとり世代」だ！＞

「ゆとり教育」という言葉を聞いてどのようなイメージを持つだろうか。ゆとり教育が本格的に実施される前にこの質問をすれば、多くの人が少なくとも”賛成”の立場からの回答をするだろう。しかし、ゆとり教育が見直されたあとにこの質問をすると、”反対”の立場の回答が圧倒的多数を占めるだろう。私にこのような推測をさせたゆとり教育とは、一体、どのようなモノであったのだろうか。まず、従来の「詰め込み型教育」を過ちだと判断し、子供に自らの意志に基づく学習を進めさせることが目標とされた。「教育を受ける義務」と捉えるのではなく、「教育を受ける権利」だと捉える、まさしく、真の教育であるかのように思われた。しかし、従来の教育体制（即ち、詰め込み型教育）では、基礎学力の定着に重点が置かれ、幅広い知識を一定の深さで偏り無く学習を進められていたのに対し、ゆとり教育では学習範囲を狭め、学習の質（即ち深さ）を軽薄化させた。この制度改革により、必然的に授業時間数が減少し、それでも余ってしまう時間を「総合的な学習の時間」として穴埋めを図った。では、「総合的な学習の時間」とは、どのような学習をするのであろうか。そもそも、「総合的」という言葉に含まれる学習内容が、かなりあいまいなのである。私の小学生時代（当然ゆとり体制化）では、「道徳教育」がこの時間に行なわれていた。その中でも、「人権教育」に力が入っていたように思う。さらに言えば、「道徳教育＝人権教育＝差別問題」の構図が、ごく当たり前の前提として存在したと思う。人権教育は非常に重要なテーマであるが、「道徳」という限り、「人としてどう生きるのか」ということをメインテーマとして掲げるべきではないのだろうか。差別について考えることも大切だが、他の切り口から「人」を見つめることは出来ないだろうか。私からすれば、あまりにも限定的なテーマのみが「総合的な学習の時間」で扱われていたように思う。さて、巷では、「ゆとり世代」という言葉が使用されている。使われ方から意味を察するに、「人ととしての思考力不足な世代」、「無神経な世代」といったところであろう。私だけではなく、この文章を読んで下さっている皆様も、非常に心外であると思う。しかし、言葉には必ず意味があり、その意味は少なくとも複数の品詞で成り立っているものである。毎回、複数の品詞から成っている”意味”を口で言うのは面倒であるので、それを一語で表す「言葉」というものが生まれると考えられる。また、その意味はある程度、多くの人が同感しないと言葉として生み出されることはない。即ち、「ゆとり世代」という言葉も、ある程度多くの人が「無神経な奴が多い」と私達の世代を評価したから、出現したのである。そう考えると、私達と同世代の人の多くが、無神経であることは否めないのではないだろうか。全体感での評価とはこのような原理であると考えられる。このような「ゆとり世代」を作り出した「ゆとり教育」を改めてあなたはどう評価するのだろうか。基礎学力が低下し、道徳教育の根本が教えられず、挙句の果てには無神経な輩が出現する……
私の意見はゆとり教育反対！であるが、詰め込み型教育に戻すことにも反対である。文部科学官僚は、スタート地点に戻り、今一度、「正しい教育とは何か」を考えてもらいたい。私の人生の大切な数年間、どっぷりとゆとり教育に浸ったこと、官僚さんたち、分かってますか？私だけではない、多くのピュアな子供が、大きな実験の失敗のより、大きな弊害を受けたこと、分かってますか？教育史に残る、大汚点。日本の”売り”は知能です。頭の良さ。なのに、未来の日本を支える人たちの頭を、あまり良くしなかった。もう少し経てば分かります。世代間の様々な数値によって。大人になった時、分かります。さあ、ゆとり世代の皆様（私も含めて）、自力で勉強しましょう！っでないと、ガチでヤバイよねぇ……